

平成 30 年度  
沖縄県官民一体ニューウェーブ人材育成事業  
報告書

『沖縄県と福建省の産業連携の施策調査及び官民協働による戦略提言』

平成 31 年 2 月 21 日  
沖縄県 総務部 人事課

# 目次

はじめに	i
第1章 事業概要	1
1. 沖縄県官民一体ニューウェーブ人材育成事業について	1
1.1. 事業目的	1
1.2. 参加人員	1
1.3. 研修日程及び訪問先	2
2. 福建省の基本情報	4
2.1. 地理	4
2.2. 地勢	5
2.3. 行政区画	5
2.4. 常住人口、産業構造	5
2.5. 福建系華僑・華人	6
3. 福建省の歴史	7
3.1. 福州の歴史と発展	7
3.2. 廈門の歴史と発展	7
第2章 貿易・物流分野	9
1. 国際物流分野における中国港湾の発展	9
2. 中国の国際物流拠点化における行政機関の役割	10
2.1. 中国の物流関連政策の動き	10
2.1.1. 国務院10大産業振興計画	10
2.1.2. 第13次5カ年計画	10
2.1.3. 「一帯一路」構想	11
2.1.4. 「一帯一路」における福建省の位置づけ	12
2.2. 中国物流の関税体系	13
2.2.1. 関税制度	13
2.2.2. 関税以外の諸税およびその他の処遇	13
2.2.3. 税関特殊監督管理区域	13
3. 福建省における物流	15
3.1. 福建省の貿易状況	15
3.2. 福建省の港湾	16
3.2.1. 廈門港	17
3.2.2. 福州港	17
3.2.3. 泉州港	17
3.3. 福建省の空港	18
3.3.1. 福州長楽国際空港	18
3.3.2. 廈門高崎国際空港	18
3.3.3. 廈門翔安国際空港	19
3.4. 福建省の物流戦略（中国（福建）自由貿易試験区）	19
3.4.1. 中国（福建）自由貿易試験区設立の背景	19
3.4.2. 中国（福建）自由貿易試験区の概要	20

4.	福建の物流戦略から考える沖縄の物流戦略	21
4.1.	沖縄県の貿易状況	21
4.1.1.	沖縄県の貿易状況（全体）	21
4.1.2.	沖縄県の貿易状況（対中輸出入）	22
4.2.	沖縄の物流における課題	23
4.2.1.	輸入超過	23
4.2.2.	海上輸送貨物における片荷輸送	24
4.2.3.	航空貨物における小規模な輸出货量	26
4.2.4.	海上国際航路ネットワークの拡充	27
4.3.	沖縄の物流における優位性	28
4.3.1.	地理的優位性	28
4.3.2.	沖縄国際物流ハブ	28
4.3.3.	日本で唯一の国際物流特区(国際物流拠点産業集積地域)	29
4.3.4.	増加する外国人観光客	29
4.4.	自主企画調査（企業ヒアリング）	32
4.4.1.	福州便行国際貿易有限公司	32
4.4.2.	福建省糧油食品進出入口集団有限公司	32
4.4.3.	福州名成食品工業有限公司	33
5.	輸出拡大の可能性検討	34
5.1.	泡盛輸出戦略	34
5.1.1.	泡盛業界の現状	34
5.1.2.	泡盛の輸出可能性の検討	36
5.1.3.	検討結果による提案事項	38
5.2.	シークワサー輸出戦略	39
5.2.1.	市場動向	39
5.2.2.	近年の中国の健康市場規模	43
5.2.3.	販売チャネル	44
5.2.4.	シークワサーの提案	46
5.3.	水産品輸出戦略	46
5.3.1.	福建省自主企画	46
5.3.2.	沖縄県冷凍冷蔵倉庫不足状況	47
5.3.3.	那覇港総合物流センターについて	48
5.3.4.	超低温庫の設置	49
5.3.5.	サメの輸出について	51
6.	まとめ	53
第3章 農産物及び加工品の輸出拡大について		54
1.	沖縄県における農業の現状と課題	54
1.1.	沖縄県の農業算出額について	54
1.2.	沖縄県の農業所得、農業関連所得について	54
1.3.	販売農家数について	55
1.4.	販売農家における年齢別農業就業人口について	55
1.5.	沖縄県における農業の現状と課題のまとめ	56
2.	現地調査対象選定理由	56

2.1.	調査内容の検討	56
2.2.	調査内容の選定	56
3.	各調査箇所概要	57
3.1.	北大路市場	57
3.2.	Carrefour（カルフル）	58
3.3.	永輝超市（BRAVO）	59
3.4.	達明美食街（夜店）	60
4.	調査箇所概要	61
4.1.	調査店舗の農産物の取り扱いについて	61
4.2.	農産物の価格について	62
4.3.	産地についてのイメージ	63
4.4.	調査結果考察	63
5.	沖縄から中国へ農産物の輸出の可能性とまとめ	64
5.1.	沖縄から中国へ農産物輸出の課題について	64
5.2.	沖縄産調味料（うちなースパイス）を輸出する	65
第4章 福建省からの観光誘客と受入について		66
1.	現状の課題	66
1.1.	福建から見た沖縄	66
1.2.	中国クルーズ船観光客の課題	66
2.	観光誘客の可能性	68
2.1.	厦門港発着クルーズの傾向	68
2.2.	福建旅行会社の旅行商品	68
3.	観光客の受入対策及び提言	72
3.1.	クルーズ船の受入れの課題について	72
3.1.1.	現状分析	72
3.1.2.	顧客満足度向上によるリピーター率の向上について	74
3.1.3.	まとめ	75
3.2.	誘客コンテンツの拡充	75
3.2.1.	福建省の主要観光地－三坊七巷	75
3.2.2.	沖縄の主要観光地－那覇市国際通り	76
3.2.3.	提言1：目的地にふさわしい観光まちづくりの展開	77
3.2.4.	提言2：ノンバーバル（非言語）コンテンツの常設公演	78
3.3.	観光地への移動（二次交通）	80
3.3.1.	沖縄県における現状と課題	80
3.3.2.	中国クルーズ船観光客の二次交通の問題点	81
3.3.3.	提言1：福建省の交通手段（BRT）	81
3.3.4.	提言2：既存の二次交通の充実	83
3.3.5.	まとめ	83
3.4.	人材育成・確保について	84
3.4.1.	中国語対応能力の現状について	84
3.4.2.	中国語対応能力向上への取り組みについて	84
3.4.3.	中国人人材雇用への課題について	87
3.4.4.	課題解決に向けた提案	87

3.4.5. まとめ.....	88
第5章 福建省直行便再開と観光収入の増に向けた施策展開 .....	89
1. 数値で見る沖縄観光の現状.....	89
1.1. はじめに.....	89
1.2. 入域観光客数と観光収入の推移.....	89
1.3. 観光客一人当たりの県内消費額の推移.....	90
1.4. 第5次沖縄県観光振興基本計画の目標値の達成状況.....	90
2. 福州直行便の就航状況と運休後の取組.....	91
2.1. 福州－沖縄直行便の就航状況について.....	91
2.2. 直行便運休後の取組について.....	92
3. 現在の福建省市場の分析.....	92
3.1. 現在の福建省市場分析.....	92
4. 定期便運航再開に向けた取組.....	93
4.1. 誘客ターゲット.....	93
4.2. この施策のねらい.....	93
4.3. なぜ厦門発の定期便就航を目指すのか.....	93
4.4. 実施体制と協力パートナー.....	97
4.5. 主な施策.....	97
4.6. 日本政府の東南アジア向けビザの発給要件緩和.....	97
4.7. 福建省－沖縄県相互交流フライ&クルーズツーリズム.....	98
4.8. 「卒業旅行」商品造成・人材育成に向けた施策展開.....	100
4.9. 福建省市場における修学旅行と医療ツーリズム.....	101
5. 結果目標・成果目標.....	105
5.1. 結果目標.....	105
5.2. 成果目標.....	105
6. まとめ.....	107
6.1. 事業目的.....	107
6.2. 事業の行程.....	107
第6章 IT・IOT分野－沖縄型EC・キャッシュレス化戦略－ .....	110
1. 調査目的.....	110
2. EC市場動向のマクロ分析.....	111
2.1. ECの調査概要.....	111
2.2. 世界のEC市場の拡大.....	111
2.3. 規模と成長率で存在感を示す中国EC市場.....	111
2.4. 越境EC市場の拡大.....	112
2.5. 中国向け越境ECにおける日本の優位性.....	113
2.6. 中国向け越境ECにおける人気カテゴリー.....	113
3. 中国・福建ECのミクロ分析（ECの成長要因分析） .....	115
3.1. 消費者の志向.....	115
3.2. インフラ整備.....	115
3.3. 福建省現地のEC企業の事例から.....	115
4. 沖縄の現状・課題.....	116

4.1.	高成長の EC 市場の中で伸び悩む県内 EC 事情	116
4.2.	沖縄県の EC 展開が伸び悩む要因は「プロダクトアウト偏重」	116
5.	EC 分野における戦略提言	118
5.1.	ソーシャルバイヤー・福建連携型市場展開事業	118
5.2.	Inbound 020 アンテナショップ事業	118
5.3.	マーケットイン型スタートアップ事業	119
5.4.	コト消費（炫富搾）促進事業	119
5.5.	HONMONO フロクチェン事業	120
6.	中国・福建におけるキャッシュレス*	121
6.1.	キャッシュレスの調査概要	121
6.2.	キャッシュレス化動向のマクロ分析（世界・中国・日本の国際比較）	122
6.2.1.	世界的なキャッシュレス化の進展	122
6.2.2.	急速にキャッシュレス化が進む中国の普及要因	122
6.2.3.	キャッシュレス化が遅れている日本の停滞要因	122
6.2.4.	現地調査によって導出された普及のポイント	123
6.3.	日本・沖縄の現状・課題	125
7.	キャッシュレス化分野における戦略提言	125
7.1.	コントローラブルなセクターを考える	125
7.2.	キャッシュレスインフラ整備実証事業	125
7.3.	クルーズ船向けシェアリングサイクル&エリアプロモーション	126

## はじめに

本報告書は、平成 30 年度沖縄県官民一体ニューウェーブ人材育成事業派遣の県職員 12 名と民間企業社員 9 名が中華人民共和国の福建省で調査した内容や結果をグループごとにまとめ、さらに研修をとおしての気づきや学びのほか、沖縄県の施策への提言等を報告するものである。

当該事業は、派遣前の事前研修 2 日間、派遣研修 6 日間（台風の影響で 2 日延泊し実際は 8 日間）、派遣後の事後研修 2 日間、研修結果報告会約半日間のプログラムで実施された。

事前研修では、派遣研修の充実を図るため、派遣国に関する事前調査や、沖縄県の関連部署から「アジア経済戦略の施策」「沖縄県と福建省の交流の歴史等」「沖縄 21 世紀ビジョン」「沖縄県の観光施策」について講義を受け、施策実施状況等の調査に取り組み、事後研修では、グループワークやグループ討議等により、調査深度を深め、報告・提言等の作成に取り組んだ。

派遣研修において各グループが調査・研究したテーマは、第 2 章及び第 3 章が「貿易・物流分野」で、第 4 章及び第 5 章が「観光分野」、最後に第 5 章が「IT・IIOT 分野」として本報告書で報告し、調査・研究及びグループごとに取り組んだフリーリサーチ等に基づき、沖縄県の施策に対する提案を行った。

本報告書で行う戦略提言の内容について、組織内外で共有するとともに、官と民が連携し練り上げた提言について、今後の事業施策等の参考となることを期待する。

最後に、この研修にご協力いただいた関係機関等の皆さまに感謝を申し上げるとともに、本研修で得た業種を越えた研修生同士の人脈を大事にし、派遣職員一同が、実効性のある政策形成力やアジアや世界を視野に入れたグローバルな視点を備えた人材となることができるよう、今後とも周囲の皆さまによるご支援・ご指導等をお願い申し上げます。

平成 31 年 2 月

平成 30 年度沖縄県官民一体ニューウェーブ人材育成事業派遣職員

沖縄県職員 鎌溝遼治郎、糸洲昌子、舛本峻也、山城梢、城田隼人、  
石原慎太郎、天野芳昭、眞境名悠、城間忠、大城由美、  
高良鉄丈、上原香織

民間企業 琉球海運(株) 新垣隼飛、沖縄県農業協同組合 浜門由昇、  
琉球通運(株) 藤崎圭介、拓南本社(株) 上原康志、  
(有)東南植物楽園 宮里高明、沖電企業(株) 宮城正一、  
医療法人タピック 上原宗哲、(株)りゅうせき 上原新一郎、  
沖縄セルラーアグリ&マルシェ(株) 加賀武史

# 第1章 事業概要

## 1. 沖縄県官民一体ニューウェーブ人材育成事業について

### 1.1. 事業目的

沖縄県では、成長著しいアジアのダイナミズムと連動した経済成長を描く「沖縄県アジア経済戦略構想」を策定し、同構想で示された戦略の実現を図るため、沖縄を日本とアジアを結ぶ架け橋として発展させるための環境づくりを進めることが重要であると考えている。そのためには、部局横断型で実効性のある施策の展開や、官民連携強化による各種施策の推進を図ることが求められ、アジアや世界経済を視野に入れたグローバルな視点を持った人材の育成と官民の業種を越えた人脈の形成が求められている。

これらを実現するため、県では、平成29年度から、県職員と民間企業の社員合同でアジア等の海外へ職員を派遣し、調査研究や現場視察等を行う研修事業を実施している。

### 1.2. 参加人員

グループ	所属名	職名	氏名
A 貿易・物流Ⅰ	沖縄県保健医療部	研究員（化学）	糸洲 昌子
	沖縄県土木建築部	主任（土木）	鏈溝 遼治郎
	琉球海運(株)	係長	新垣 隼飛
	沖縄県農業協同組合	室長	浜門 由昇
B 貿易・物流Ⅱ	沖縄県環境部	主任（土木）	舛本 峻也
	沖縄県農林水産部	研究員（農業）	山城 梢
	琉球通運(株)	係長	藤崎 圭介
	拓南本社(株)	課長	上原 康志
C 観光Ⅰ	沖縄県総務部	主任	石原 慎太郎
	沖縄県文化観光スポーツ部	主査	城田 隼人
	沖縄県土木建築部	主任	天野 芳昭
	(有)東南植物楽園	副園長	宮里 高明
	沖電企業(株)	課長	宮城 正一
D 観光Ⅱ	沖縄県子ども生活福祉部	主査	眞境名 悠
	沖縄県文化観光スポーツ部	主査	城間 忠
	沖縄県教育庁	主任	大城 由美
	医療法人タピック	課長	上原 宗哲
E IT・IOT	沖縄県商工労働部	主任	高良 鉄丈
	沖縄県監査委員事務局	主幹	上原 香織
	(株)りゅうせき	石油担当	上原 新一郎
	沖縄セルラー電話(株)	アグリ事業営業部長	加賀 武史



### 1.3. 研修日程及び訪問先

区 分		日 程		内 容
事前 研修	第 1 回	6月7日(木)	10:00 ～ 17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・研修の進め方、全体スケジュール</li> <li>・マーケティング調査手法</li> <li>・アジア経済戦略課の施策</li> <li>・グループワーク</li> </ul>
	第 2 回	6月8日(金)	9:00 ～ 17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と中国(華僑)の文化の違い、</li> <li>・交流推進課の施策</li> <li>・沖縄21世紀ビジョン(企画調整課)</li> <li>・沖縄県の観光施策(観光政策課)</li> <li>・調査報告書の作成方法</li> <li>・グループワーク</li> </ul>

区 分	日 程		内 容
海外 研修	8月6日(月)	終日	・移動(那覇⇒福建省・福州市)
	8月7日(火)	午前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福建省政府商務庁</li> <li>・永輝超市股份有限公司</li> </ul>
		午後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球館、琉球人墓園</li> <li>・福建師範大学先生との意見交換</li> <li>・福建省人民政府外事弁公室との意見交換</li> </ul>
	8月8日(水)	午前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福建省旅游発展委員会</li> <li>・福建康輝国際旅行社股份有限公司</li> <li>・福建中旅旅行社有限公司</li> </ul>
		午後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福州市博物院</li> <li>・主要観光地(三坊七港)</li> </ul>
	8月9日(木)	午前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動(福州市⇒廈門市)</li> <li>・厦門国際会议中心(厦門国際展示場)</li> <li>・厦門国際邮轮中心(クルーズ船ターミナル)</li> </ul>
		午後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福建自貿区厦門片区管理委員会</li> <li>・厦門越境電商産業園(入居ベンチャー企業)</li> <li>・主要観光地(中山路)</li> <li>・移動(廈門市⇒福州市)</li> </ul>
	8月10日(金)	終日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主企画調査(グループ行動)</li> <li>※福州市日本企業会との交流会(夕食)</li> </ul>
	8月11日(土)	終日	・移動(福州市⇒上海市) ※台風の為(上海延泊)
	8月12日(日)	終日	※台風の為(上海延泊)
8月13日(月)	終日	・移動(上海⇒那覇)	

区 分		日 程		内 容
事後 研修	第 1 回	9月7日(金)	10:00 ～ 17:00	・海外研修後アンケート、研修の振り返り ・調査報告書の作成方法及び注意点 ・グループワーク
	第 2 回	10月19日(金)	10:00 ～ 17:00	・各グループの戦略立案、プレ発表
報告会		11月16日(金)	14:00 ～ 16:15	・研修報告会(本庁5階第1・第2会議室)

## 2. 福建省の基本情報

### 2.1. 地理

福建省は、中華人民共和国（中国）に存在する 23 省のうちの一省である。中国南東部の海岸沿いに位置し、東西約 480km、南北約 530km に広がり、総面積は約 12.4 万km<sup>2</sup>となっている。江西省との境界にまたがる武夷山脈等、陸地面積の 80%以上を山地・丘陵が占める一方、3,752km に及び中国全土第 2 位の長さの曲がりくねった海岸線を持ち、地理的多様性を呈している。沿岸には多くの港があり、特に沙埕港、三都澳、羅源湾、湄洲湾、厦門港、東山港の 6 つは深海港となっている。

沖合には 1,500 以上の島が点在しており、そのうち平潭島がこの地域で最大の島である。なお、台湾海峡を挟んで対岸約 120 キロに中華民国（台湾）新竹港があり、大陸から最も近接する位置関係にある。また、厦門市の沖合約 2 km に中華民国（台湾）が統治する金門県（小金門島）が存在し、国共内戦期間中は軍事的衝突の最前線になったが、現在は三通政策の下、観光・貿易を通して両岸は友好関係を構築している。



出典：中国国家観光局

図 1 中国全土地図

## 2.2. 地勢

福建省の気候は亜熱帯海洋性モンスーン気候であり、年間平均気温は 17 度から 21 度と温暖である。平均降雨量は 1400mm から 2000mm 程度と中国で最も降水量の多い地域の一つであり、居住や農業に適した気候条件である。

## 2.3. 行政区画

福建省は、福州市、廈門市、龍岩市、南平市、寧徳市、莆田市、泉州市、三明市並びに漳州市の 9 の地級市で構成されており、省都は福州市である。



出典：中国国家観光局

図 2 福建省内図

## 2.4. 常住人口、産業構造

2017 年末の福建省の常住人口は 3,911 万人であり、各市別では泉州市 865 万人、福州市 766 万人、漳州市 510 万人、廈門市 401 万人の順となっている（表 1 参照）。

福建省の産業構造として、省全体の域内総生産は第二次産業の割合が高いが、省都福州市と副省級市廈門市に関しては、金融・サービス・物流・観光等の第三次産業の割合が最も高い。

表 1 2017 年福建省市別経済統計

市名	面積 (km <sup>2</sup> )	常住人口 (万人)	1人当たり GDP (元)	域内総生産 (GDP) (億元)			
				第一次 産業	第二次 産業	第三次 産業	
福州市	12,251	766	92,290	7,104	519	2,963	3,622
廈門市	1,699	401	109,740	4,351	23	1,816	2,512
莆田市	4,200	290	70,646	2,045	130	1,147	768
三明市	22,965	257	83,440	2,136	283	1,095	758
泉州市	11,015	865	82,976	7,548	198	4,398	2,952
漳州市	12,631	510	70,216	3,563	430	1,696	1,437
南平市	26,300	325	N. A.	1,626	329	699	598
龍岩市	19,052	264	82,258	82,258	227	1,125	815
寧徳市	13,452	290	61,964	1,793	302	876	615

出典：「福建省統計年鑑」、各市「2017年国民経済及び社会発展統計公報」、みずほ銀行「福建概況」

## 2.5. 福建系華僑・華人

大陸から最も台湾に近接する地理的關係から、古来より海峡兩岸の交流及び交易が盛んであり、台湾住民の約8割は福建出身者の子孫であると言われている。

また、省域の80%を占める山間地が海まで迫り、平地や耕作地に限られるその地理的性質から、海上交易を通じて海外移住する福建人も多く、世界中に彼らの子孫が散らばることとなった。現在、福建にルーツを持つ華僑・華人は世界の176の国・地域にいるとされており、その総数は1,000万人を超えると推定される。なお、華僑とは中国国籍で中国以外の国・地域に在住する人々、華人とは現地国籍を持つ中国系住民を指すとされている。

### 3. 福建省の歴史

#### 3.1. 福州の歴史と発展

福建省は略称を閩（びん）といい、車のナンバープレートの識別記号として用いられるなど、福建人にとって馴染み深い呼称である。

新石器時代から福建には閩人と呼ばれる人々が存在した。春秋戦国時代の紀元前 334 年、長江下流域に存在した越の国の滅亡により越人が福建に流入してきたことで、閩と越が合わさり、閩越と呼称されるようになった。

時代が下り、唐の時代には福州都督府が設置され、そこから福州の名が用いられるようになったようである。唐代末期には、王審知（太祖）が福州を都として閩を建国、五代十国時代（907 年－960 年）における一国として 909 年から 945 年の間、福建に存在した。太祖王審知は内政・南海交易等に力を注ぎ、当時後進地であった福建を大きく発展させた。その功績から、開閩王と称えられ、今でも福州市の閩王徳政碑等を訪れる人がいるなど、福建人の誇りとなっている。しかしながら王審知の死後、閩は内紛に陥り間もなく滅亡した。

その後、宋、元による支配を経て、時代が明に移ると福州には貿易官庁である市舶司が置かれるとともに、当時朝貢関係を通じて海上交易を行っていた琉球王国の指定入港地にもなった。福州には琉球王国の出先機関として、一般的に琉球館として知られる「柔遠駅」が設置され、清代末期まで琉球王国の朝貢拠点として重要な役割を担った。

清代末期の 1840 年、イギリスを相手に勃発したアヘン戦争で清は敗北し、講和条約である南京条約により清は福州を対外的に開港することとなり、国際貿易拠点港として発展していくこととなった。1984 年には経済開発区（対外経済開放地区）として、中国 14 都市中の一都市に指定されている。

#### 3.2. 廈門の歴史と発展

廈門市は福建省南部の九竜江河口付近に位置し、市内に廈門島や鼓浪嶼（コロンス島）などの島嶼部を含む。廈門島や金門島、小金門島等は中華民国（台湾）の実効支配下であり、台湾海峡を隔てて台湾に臨む。

当地には、明代に廈門城が築かれ「廈門」という地名が初めて使用された。清代初期の 1650 年には反清復明を目指し「国性爺」と呼ばれた民族的英雄の鄭成功が廈門を拠点に反清活動を行ったが、1680 年に清に占領された。以降、廈門は中国人商人による東南アジア貿易の拠点として繁栄し、また台湾の開発が進むにつれて台湾との貿易も増大した。

アヘン戦争中はイギリス軍に占領され、1842 年の南京条約によって外国人に対して開港、1860 年代からは茶葉の積出港として海外に知られるようになった。1862 年にイギリス租界が、1902 年にはコロンス島に共同租界が設置され、外国商社の商館が進出した。1935 年に中華民国政府のもと市制が施行されたが、1938 年に日本軍が占領、1940 年には廈門特別市となった。

中華人民共和国成立後、改革開放政策のもと、1981 年に経済特区が設置され、主に対岸の台湾資本を集めて経済成長を遂げた。また、台湾が実効支配している金門県との間で、2001 年以降限定的な二地域間交流の小三通が実施されている。

2017 年には、鼓浪嶼（コロンス島）が世界文化遺産に登録された。

《参考資料》

- みずほ銀行「福建省概況」  
<https://www.mizuhobank.co.jp/corporate/world/info/cndb/regions/pdf/R521-0195-XF-0104.pdf>
- JETRO「厦門スタイル」、2011年10月  
[https://www.jetro.go.jp/ext\\_images/jfile/report/07000738/amoy\\_style\\_all.pdf](https://www.jetro.go.jp/ext_images/jfile/report/07000738/amoy_style_all.pdf)
- JETRO「福建省および主要都市の経済概況（2016年）」、2017年9月更新  
[https://www.jetro.go.jp/ext\\_images/world/asia/cn/kanan/pdf/overview\\_fujian\\_2017\\_09.pdf](https://www.jetro.go.jp/ext_images/world/asia/cn/kanan/pdf/overview_fujian_2017_09.pdf)
- 福建省人民政府 省情概況 <http://www.fujian.gov.cn/szf/gk/>